ゆたかな心をはぐくむ

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権作文シリーズ【No.23】

意識の深いところに押し込め触れたくなかったであろう言動を文章にし自分を見つめることは、簡単な事ではなかったでしょう。同じように父の仕事や日常を綴ることも作者が父の姿をより深く見つめ直している証です。年令は異なり、文章にした事柄は違っていても二人の成長が伺えます。

＊作者の学年は前年度の在籍学年となります。

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

自分の生き方について考える

武蔵ヶ丘中2年　鬼海　華子

私は、人と接するのがあまり好きではありません。それは、ずっとそうだったのではなく、中二になった時ぐらいから苦手になったのです。友達やクラスの人と普通に話しているときでも、心の中ではかなり気を遣っていて、相手に不快な思いをさせたことも何度かあります。相手は気にしていないかもしれないけど、私自身が後から思い出して後悔することもあります。

私は小六の時に仲のいい友だちと喧嘩して悪口を言いふらしたりしていたことがあります。一年間の内にたくさん喧嘩しましたが、なぜ喧嘩をしたのかはあまり思い出せません。しかし、私がその友達にどんな事をしたのかはすべて思い出すことができます。

▲人権集会（武中）

小六の時、私には仲良しの友達が二人いました。小六になって転校してきた私にとって、二人はとても大切な友達でした。学校でも休み時間などにいろんなことをして遊んでいました。だけどいつの頃からか喧嘩をするようになりました。本当に些細なことがきっかけで一時的に喧嘩をしてしばらくしたら仲直りをする、というのを繰り返していたのですが、それがだんだんエスカレートして片方の子だけを仲間外れにして二人だけで遊ぶようになってしまいました。今考えてみると、私は仲間外れにしていた側ばかりで、私が仲間外れにされたことは一度もありません。仲間外れにしたその子の欠点や悪口を関係のない人にまで話しました。一週間くらいは口を利かなかったこともありました。その時の私には、悪いことをしているという自覚はありませんでした。しかし、今になって「ああ、私はなんてことをしたのだろう。」と後悔の気持ちでいっぱいです。中学校に上がる前に、一応その二人とは仲直りをしたのですが、今でもきちんと謝ることが出来ていません。そんな中で、ある特定の人に対する悪口を言っているのを聞くと、あの人たちは私にもそんなことを思っているのかもしれないと思ってしまいます。私のことを言っているのではないだろうけど、私のことを言われているようにきこえます。だけど、小六の時の思い出があるのに、中学生になってからも、何度も人の悪口をいいました。それを思い出して……の繰り返しで、人と接することが怖くなりました。

私は、自分のことを深く語るのは好きではないし、いくら友達だからといってその友達の全てを知っているわけでもありません。私は、どんな人の心にも、差別心はあると思っています。だから、最初から差別やいじめを無くそうとか言うよりもお互いのことをきちんと分かり合うことが必要だと思います。それで、同じような人もいれば異なる人もいると思うけど、その壁を克服してこそ差別をなくす第一歩です。

私も、もう二度と同じような過ちを繰り返さないように、相手のことを少しでも知るようにしたいと思います。

ぼくのお父さん

菊陽中部小2年　清田　とわ

ぼくのお父さんの好きな食べものは、おにくです。ぼくもにくがすきです。お父さんは、お兄ちゃんよりいっぱい食べます。「食いしんぼうだな。」と思います。

お父さんは、ばんきんのしごとをしています。ばんきんのしごとって、てつとかをつかって家のかべを作るしごとです。

けがをしないように気をつけています。前に、ゆびを切ったことがあります。けがをしてとてもいたそうでした。けがをしても、おしごとに行くお父さんを見て、がんばっているなと思いました。ぼくは、あんまりけがをしてほしくないです。

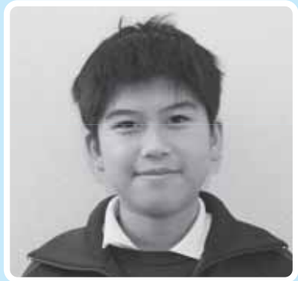
▲笑顔がいっぱい！

お父さんは、家ぞくをまもるために、おしごとをしています。りっぱな家ができたとき、うれしいそうです。

お父さんのゆめやねがいは、家ぞくみんながけんこうでいることです。

ぼくは、大きくなったらお父さんといっしょにしごとをしたいです。そして、いっぱいはたらきたいです。

菊陽人りさーち



橋本　健司（はしもと　けんじ）さん（12歳）
［中　代］

- 趣　味　卓球
- 自分を一言で表すと
  元気じゃないときがない！
- 自　慢
  おもしろい友達がいること
- みんなに伝えたいこと
  小さなことからコツコツと！

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先（昼間）」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注）掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

橋本　勢光（はしもと　せいこう）さん（9歳）
［中　代］

- 趣　味　野球
- 将来の夢　プロ野球選手になる
- 自　慢
  いい友達がいること
- みんなに伝えたいこと
  野球が好きな人は野球を見に行こう

きくよう文芸

菊陽句会報

競ふこと街（まち）ふことなく去年今年　坂本百合子
ほのぼのと七草粥も炊きあがる　田中　郁子
大寒の城の負ひ来し過去の修羅（しゅら）　村田　正三
荒くれの熔岩（らば）抱き込むや初景色　井　子文
友の輪を連基（れんご）で繋ぐ卯年春　財津　早雪
斑雪（はだらゆき）夕闇の中ほの明り　原野レイ子
お浄土に昇りゆくごと雪降れり　力　幸子
母親となりたる姪や初日の出　寺尾千代子
水仙や友の目ざめを待ちて咲け　髙橋　孝子
幼さな子の笑みのこぼるるお正月　堀川　妙子
寒々と自転車通る杉並木　佐藤　航
雪合戦かたきをうって初勝利　佐藤　健
孫嫁の年越し蕎麦（そば）の味冴えて　佐藤　節

短歌会

庭先の梅のつぼみはまだ固く冷たき指に息吹き掛ける　今村　貞子
ビニールを三重に張りたるミニトマト花は四段目収穫近し　梅田　國雄
澄む空に早くも傾く三つ星を寒さに堪へつつ夜半に見上げぬ　菊川あさみ
あたたかき春を待ちつつ背戸の田に降りつむ雪を見むと出で来し　河北　幸一
朝の庭に雪は積もりぬうっすらと千両の実は赤くひかれり　下田　久子
竈（かまど）にて燃ゆる炎に手をかざし母を待ちにし遠き日思う　中村トシエ
冷たさに耐えいる如く水底の藻の影にいて金魚動かず　森　敦子

なつかしや友の癖字の年賀状　吉野　早苗
八十年夢の如くの春の雪　川口　豊子
初雪や第九余韻の夜の街　井上久美子
夜半の雨雪となりしか阿蘇の嶺　宮川ユキエ
霜やけの子の手両掌（もろて）にいとほしむ　日髙　妙子
雪かむり阿蘇連山の深眠り　曽我　育代
大空に弾くる音やどんど焚き　曽我トモ子
肥後並（な）べて清めの雪のお元日　紫藤　祥子
馬の息白し牧場の柵に沿ひ　村上　朋子
もどかしさ友の名呼べぬ木の葉髪　野口　令史
頬かむり親父も似合う人でした　松橋　強
仏縁に集ふ睦月（むつき）のひと日晴　佐藤　澄世